

校 ◇元 気 な子  
◇考 え る子  
◇働 く 子  
訓 ◇思 い や り のあ る子

# ゆりのき

旭丘小 TEL (0561)54-3066 ホームページ <http://www.owariasahi.jp/asahigaika-c>



令和3年12月22日  
旭丘小学校  
学校だより  
第6号

## 偉業の陰に努力あり

今年も残すところ10日となりました。先日、その年の世相を漢字一文字で表す、師走恒例の「今年の漢字」が「金」に決まったと発表されました。その理由としては、コロナ禍で開催された東京オリンピック・パラリンピックで日本人選手が多数の「金」メダルを獲得したことや、大谷翔平選手が投打の二刀流で大活躍し、大リーグのMVPを満票で受賞したこと、ゴルフの松山英樹選手が日本人初のマスターズ制覇、藤井総太棋士が最年少で四冠を達成したことなど、これまで成し得なかった多くの「金」字塔を打ち立てたことが挙げられていました。どれも大変素晴らしい偉業ですが、ここでは将棋の藤井総太さんについて記したいと思います。

皆さんがご存じの通り、藤井さんは隣の瀬戸市出身です。私は、偶然にも名鉄瀬戸線で同じ車両に乗り合わせたことがあり、勝手ながら親近感をもち、ずっと応援してきたので、今年の活躍ぶりは本当にうれしいことでした。藤井さんは、史上最年少の14歳でプロ棋士になってから、次々と最年少記録を打ち立てています。プロ入りから29連勝し、公式戦最多連勝記録を樹立。昨年は、17歳11か月の最年少記録で棋聖のタイトルを獲得し、18歳1か月で王位も獲得。二冠となりました。今年に入ってから、昨年獲得した棋聖、王位の二冠を防衛し、さらに叡王と竜王のタイトルも奪取して、これまた最年少での四冠となりました。藤井さんのことを、天才という人がいます。たしかに、藤井さんは幼い頃から記憶力・集中力・思考力に秀でていて、詰将棋も得意。なんと小学校6年生で、プロ棋士も参加する詰将棋の全国大会で優勝しています。でも、さらにすごいのは、藤井さんの努力です。藤井さんは他の人の何倍もの研究をしているのだそうです。実は、藤井さんは、その雰囲気や話し方から、おっとりした印象を受けますが、ものすごく負けん気が強いことで有名です。幼少期に大人と将棋の勝負をして負けると、悔しくて大泣きをしていたそうです。「大人に負けるのは当然。仕方がない。」ではなくて、相手が誰であろうと何歳だろうと、「負けたくない。もっと強くなりたい。もっと上手になりたい。」そんな気持ちで、一生懸命、将棋の勉強をしてきたそうです。特に、昨年はコロナの影響で将棋の大会がなくなり、他の人との対局ができなかった時期に、過去の自分の対局記録はもちろん、他の人の膨大な対局記録を分析したり、コンピュータと対戦したりして、今では、なんとAIでもなかなか考えられないような差し手を考えられるほどになっています。想像もつかないほどの相当な努力をしたことがうかがえます。どんどん強くなっていく藤井さんの今後ますますの活躍が期待されます。

さて、藤井さんの話の中に出てきた「負けん気」と「分析」。どちらも大切なものです。「負けん気」を出してあきらめずに頑張ること。ただ、その「負けん気」は相手に対してではなく、自分に対して向けられなくてはなりません。藤井さんは、対局で勝利した後にも「もっと精進していきたい」とよく言っています。自分を高めていく、磨いていく気持ちをもっているからこそ強くなっていくのだと思います。もう一つの「分析」は、自分自身を客観的に見つめ直すことです。良いことも悪いことも、しっかりと振り返り、何をしたらうまくいったのか、どうして失敗したのか、どうすると良かったのかを把握しておく、次に生かしていけます。「負けん気」の熱い心と「分析」の冷静な心。偉業を成し遂げた人だけでなく、私たちにも必要なものだと思います。

明日で2学期が終わります。子どもたちには冷静に今学期を振り返り、熱い心で3学期も頑張ってもらいたいと思います。

校長 速水 一美